

令和3年5月27日実施。本市の小学校第6学年児童959人、中学校第3年生徒874人が参加。

【全体のポイント】

<国語、算数・数学>

- 令和2年度は、**新型コロナウイルス感染症による長期間の臨時休業の影響**があったが、国語の『話すこと・聞くこと』<小学校、中学校>、算数の『測定、変化と関係』<小学校>などで**70%以上の正答率**を示すなど、**全体的に、児童生徒の学力は概ね定着**。（全国平均の正答数の差は1問以下）
- 半面、国語の『読むこと』や、算数・数学の『図形』において正答率が低い問題や無解答が多い問題がみられたほか、引き続き、**思考力・判断力・表現力の育成が課題**。
- 全国（公立）と比べると、小学校の標準偏差（成績上位層と下位層の差）が大きい傾向がみられた。

		国語			算数・数学		
		平均正答数	平均正答率	標準偏差	平均正答数	平均正答率	標準偏差
小学校	守口市	8.1 / 14問	58.8 %	3.2	10.5 / 16問	65.4 %	3.6
	全国	9.1 / 14問	64.7 %	3.1	11.2 / 16問	70.2 %	3.5
中学校	守口市	8.5 / 14問	60.7 %	2.8	8.7 / 16問	54.1 %	3.7
	全国	9.0 / 14問	64.6 %	2.8	9.1 / 16問	57.2 %	3.7

<学習状況、学習意欲等>

- 「国語の勉強が好き」「算数（数学）の勉強が好き」の肯定的回答の割合は特に中学校では全国平均より高く、「計画を立てて勉強している」の肯定的回答の割合や中学校の「学校の授業以外での平日における1日当たりの学習時間」で1時間以上と回答した割合などは前回調査（令和元年度）と比べて高く、**学習意欲や学習習慣が向上**。また、「授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだ」などの回答割合も高く、主体的・協働的で深い学びの実現に向けた**授業改善が着実に進展**。
- 「自分にはよいところがある」や「将来の夢や目標」、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」などについて、全国平均と比べて低く、**自己肯定感や地域課題解決の育成が課題**。

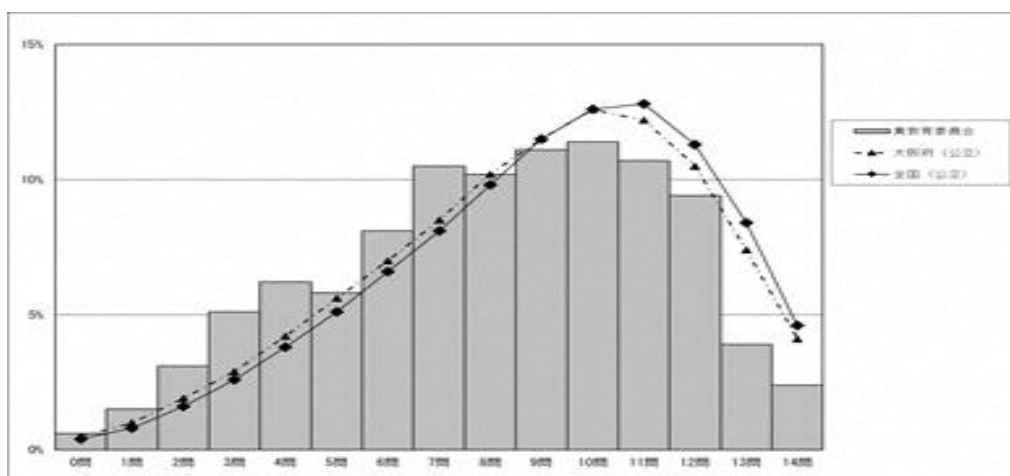
【ペーパーテスト結果のポイント】

- 小学校『話すこと・聞くこと』の「目的や意図に応じ、資料を使って話す」や「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」問題、『言葉の特徴や使い方に関する事項』の「文章全体の構成を捉え、資料を使って話す」問題などの正答率は**70%以上**。
- 『読むこと』の「目的を意識して、中心となる語や文を見付ける」や「目的に応じ、文章と図表とを結びつけて要約する」問題などの正答率は**30%未満**。
- 中学校『話すこと・聞くこと』の「話し合いの話題や方向を捉える」や「質問の意図を捉える」問題の正答率は**86%以上**。
- 『読むこと』の「文脈の中における語句の意味を理解する」や「文章に表れているものの考え方を捉え、自分の考えをもつ」問題の正答率は**40%未満**。

- 小学校『測定』の「条件に合う時刻を求めることができる」や『データの活用』の「棒グラフから、数量を読み取ることができる」や「棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる」問題の正答率は約**90%**。
- 『図形』の「三角形の面積の求め方について理解している」や「複数の図形を組み合わせた図形の面積について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる」問題の正答率は約**40%**。
- 中学校『関数』の「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる」や「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる」問題の正答率は**80%以上**。このほか、『数と式』の「数式と加法と減法の計算ができる」問題の正答率（**77.5%**）は全国平均（公立）（**77.1%**）を上回った。
- 『図形』の「平行四辺形になる条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる」や「ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見出し、それを数学的に表現することができる」問題の正答率は低かった（正答率**42.0%**、**25.0%**）。

<正答数分布グラフ>（横軸：正答数、縦軸：割合）

（例）小学校国語



四分位

	▽ 第1四分位	◇ 第2四分位	△ 第3四分位
守口市	6.0問	8.0問	11.0問
全国（公立）	7.0問	9.0問	11.0問

低位層の割合が大きい傾向

【アンケート結果のポイント】

<学校、勉強について>

- 「学校に行くのが楽しい」に肯定的な回答をした割合は、小学校82.9%（全国平均83.4%）、中学校81.0%（同81.1%）と高い傾向。
- 「国語の勉強が好きだ」に肯定的な回答をした割合は、小学校55.0%（全国平均58.4%）、中学校61.8%（同60.8%）、「国語の勉強が大切だ」の割合は、小学校88.7%（全国平均93.2%）、中学校90.9%（同91.6%）、「算数（数学）の勉強が好きだ」に肯定的な回答をした割合は、小学校65.2%（全国平均67.8%）、中学校62.6%（同59.1%）「算数（数学）の勉強が大切だ」の割合は、小学校91.4%（全国平均93.8%）、中学校83.0%（同84.1%）と全国平均を上回っている項目もあり、高い傾向。
- 「授業でのコンピュータなどICT機器の使用」や「コンピュータなどICT機器を他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用」に肯定的な回答（週1回以上）をした割合は、小・中学校ともに全国平均を大きく上回った。
- 「授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる」に肯定的な回答をした割合は、小学校73.1%（全国平均78.2%）、中学校80.4%（同81.0%）、「自分の考えがうまく伝わるよう、話の組立てなどを工夫して発表している」に肯定的な回答をした割合は、小学校59.5%（全国平均63.5%）、中学校65.3%（同62.0%）、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に肯定的な回答をした割合は、小学校76.2%（全国平均78.8%）、中学校76.5%（同77.8%）といずれも高く、経年比較しても上昇傾向。
- 「家で自分で計画を立てて勉強している」に肯定的な回答をした割合は、小学校67.4%（全国平均74.0%）、中学校60.4%（同63.5%）、「学校の授業以外での平日における1日当たりの学習時間」について、小学校で30分以上、中学校で1時間以上と回答した割合は、小学校78.3%（全国平均87.0%）、中学校68.3%（同78.9%）といずれも全校平均を下回ったが、経年比較すると上昇傾向。
- 「学校以外の授業以外での平日における1日当たりの読書時間」に「10分以上」と回答した割合は、小学校55.0%（全国平均61.2%）、中学校29.4%（同50.1%）といずれも低く、特に中学校で「全くしない」が56.7%（全国37.4%）と依然として多い。

<自己有用感、地域や社会のこと>

- 「自分にはよいところがある」に肯定的な回答をした割合は、小学校72.8%（全国平均76.9%）、中学校63.2%（同76.2%）、また「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答をした割合は、小学校76.5%（全国平均80.3%）、中学校61.1%（同68.6%）と全国平均と比べて低く、自己肯定感の育成が課題。
- 「今住んでいる地域の行事に参加している」に肯定的な回答をした割合は、小学校52.9%（全国平均58.1%）、中学校32.1%（同43.7%）、また「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」に肯定的な回答をした割合は、小学校46.6%（全国平均52.4%）、中学校39.7%（同43.8%）と全国平均と比べて低く、地域課題解決の育成が課題。



【教育委員会の今後の取組み】

「守口市学力向上プラン」（令和3～5年度）を着実に推進

- 授業改善の推進
「主体的・対話的で深い学び」の実現。すべての児童生徒にとって「わかる」「できる」授業づくり。
国語：言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質能力の育成
算数・数学：数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質能力の育成
- 自学自習力の育成
学びに向かう力の育成に向けた家庭学習の充実。知識・技能の定着、応用力・活用力の育成に向けた指導、放課後学習等の学習事業の推進。
- ICTの活用
1人1台タブレット端末、協働学習支援アプリ、学習者用デジタル教科書等の活用
- 家庭、地域との連携
- 新型コロナウイルス感染症の拡大に備えた学習保障 オンライン授業の実施
- 調査結果の詳細な分析 10月中旬を目途に公表予定

など

2

相川さんの学級では、身近にある便利なものについて調べています。相川さんは、面ファスナーを選びました。次は、相川さんが読んだ【資料】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。



【資料】

面ファスナー

面ファスナーは、かさやくつなど、さまざまな製品の留め具として使われています。簡単にくっつけたり、はがしたりすることができるとても便利な道具です。

面ファスナーは、一九四八年にスイスで起こったあるできごとがきっかけで開発されました。狩猟のため、愛犬をつれて

山に登ったジヨルジュ・デ・メストラは、犬の毛に野生のゴボウの実がたくさんついていて、気がつききました。不思議に思い、その実を持ち帰って顕微鏡でくわしく調べてみると、ゴボウの実は先の曲がったかぎ状のトゲでおおわれていることがわかりました。そのトゲが犬の毛にからみついていたのです。このことをヒントにメストラは研究を重ね、

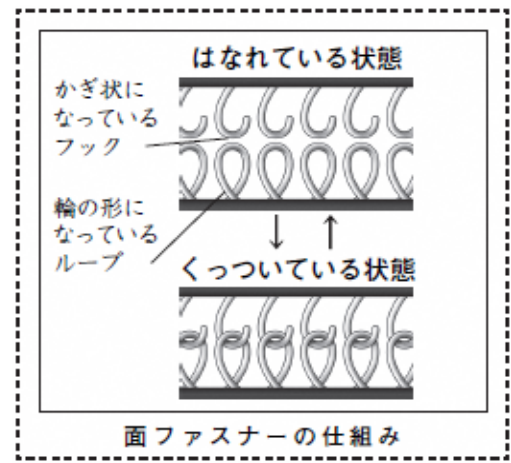
数年後、特殊な素材を使い、面ファスナーを作り出しました。一九六〇年に、日本ではじめて面ファスナーの製造・販売が始まりました。しかし、そのよさや使い道はなかなか世の中に伝わりませんでした。広く知られるようになったきっかけは、一九六四年十月の東海道新幹線の開業でした。新幹線の座席のヘッドレストカバー（頭を

あてる布）の留め具として、面ファスナーが採用されたのです。新幹線の清掃作業の際には、短時間でヘッドレストカバーを交換する必要があります。そのため、一つ一つ取り外さなければならぬホックやボタンより留め外しの簡単な面ファスナーの方が、留め具として適していたのです。誰もが注目する新幹線に使われたことで話題となり、その存在が日本中に知られるようになりました。

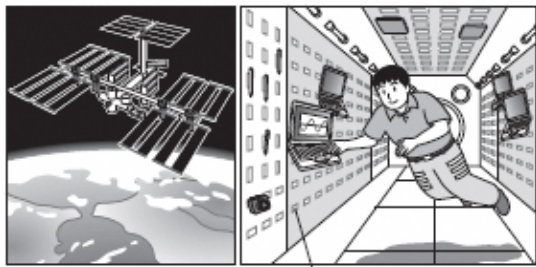
一九八〇年代には、私たちの身近にある製品でも使われるようになりました。財布やかばん、かさなどの家庭用品をはじめ、サポーターや血圧計の巻き付けバンドなどの医療用品にも広がっていきました。布のように柔軟性があり、物や体の形にぴったり合わせることができるとても便利な面ファスナーが適していたからです。中でも大流行したのが、面ファスナーを使った運動ぐつでした。ひもぐつに比べ、手間をかけずに目的や好みに合わせてしめぐあいを調節することができるとてもよさが支持されたのです。同時に、素材の開発も進められました。現在では水に強く熱にも強い素材で作られているものもあります。

また、しっかりとくっつき簡単にはがすことができる面ファスナーは、宇宙でも使われています。地球のまわりを回る国際宇宙ステーションの中は無重力状態のため、物がうかびます。そこで活躍しているのが面ファスナーです。国際宇宙ステーション内のかべや天井には、あらゆる場所に面ファスナーがつけられています。ペンやスプーン、カメラやコンピュータなど、身の回りの全ての物が固定できるようになっているのです。

一人の気づきから誕生した面ファスナーは、人びとの要求に応える形で、活躍の場を広げてきました。身近な生活場面だけでなく、宇宙空間にまで広がり、さらなる便利さが追求されています。



面ファスナーの仕組み



面ファスナー

国際宇宙ステーションとその内部

三 相川さんは、【資料】の——部を読み、面ファスナーのくつつく仕組みについて考えています。メストラは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出しましたか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- ヒントになったことと、面ファスナーのくつつく仕組みが分かるように書くこと。
- 【資料】の中の文章と「面ファスナーの仕組み」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 五十文字以上、八十字以内にまとめて書くこと。

※左のげんこう用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

※の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

80字

50字

【趣旨】

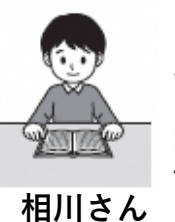
目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができかどうかをみる。

■ 学習指導要領における内容

- 〔第3学年及び第4学年〕 思考力、判断力、表現力等
- C 読むこと
- ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。

(正答例)

面ファスナーはしっかりとくつつきかん単にはがせることから、物がうかぶ国際ステーションの中で、身の回りの全ての物の固定に使われている。(70字)



相川さん

	正答率
守口市	20.3%
全国(公立)	29.7%

1 $(5x + 6y) - (3x - 2y)$ を計算しなさい。

【趣旨】文字を使って数や図形の性質を説明したり，方程式を解いたりする場面において必要となる，次のことができるかどうかをみる。

- ・数・式などを活用して，数学的に処理すること
- ・整式の加法と減法の計算をすること

■ 学習指導要領における領域・内容
〔第2学年〕A 数と式

(1) 具体的な事象の中に数量の関係を見だし，それを文字を用いて式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力を養うとともに，文字を用いた式の四則計算ができるようにする。

ア 簡単な整式の加法，減法及び単項式の乗法，除法の計算をすること。

正答 $2x + 8y$

	正答率
守口市	77.5%
全国（公立）	77.1%

7 学級委員の健斗さんは，2分間スピーチの時間をはかるための砂時計をペットボトルで作ることにしました。その砂時計は，ペットボトルに砂を入れ，砂を通すための穴をあけた厚紙をペットボトルの間にはさんで作ります。



健斗さんは，ペットボトルに入れる砂の重さを決めると，砂が落ちきるまでの時間が決まると考えました。そこで，砂の重さが x g のときに，砂が落ち始めてから落ちきるまでの時間を y 秒として調べ，その結果を，次のように表にまとめ，下のグラフに表しました。

次の(1)，(2)の各問いに答えなさい。

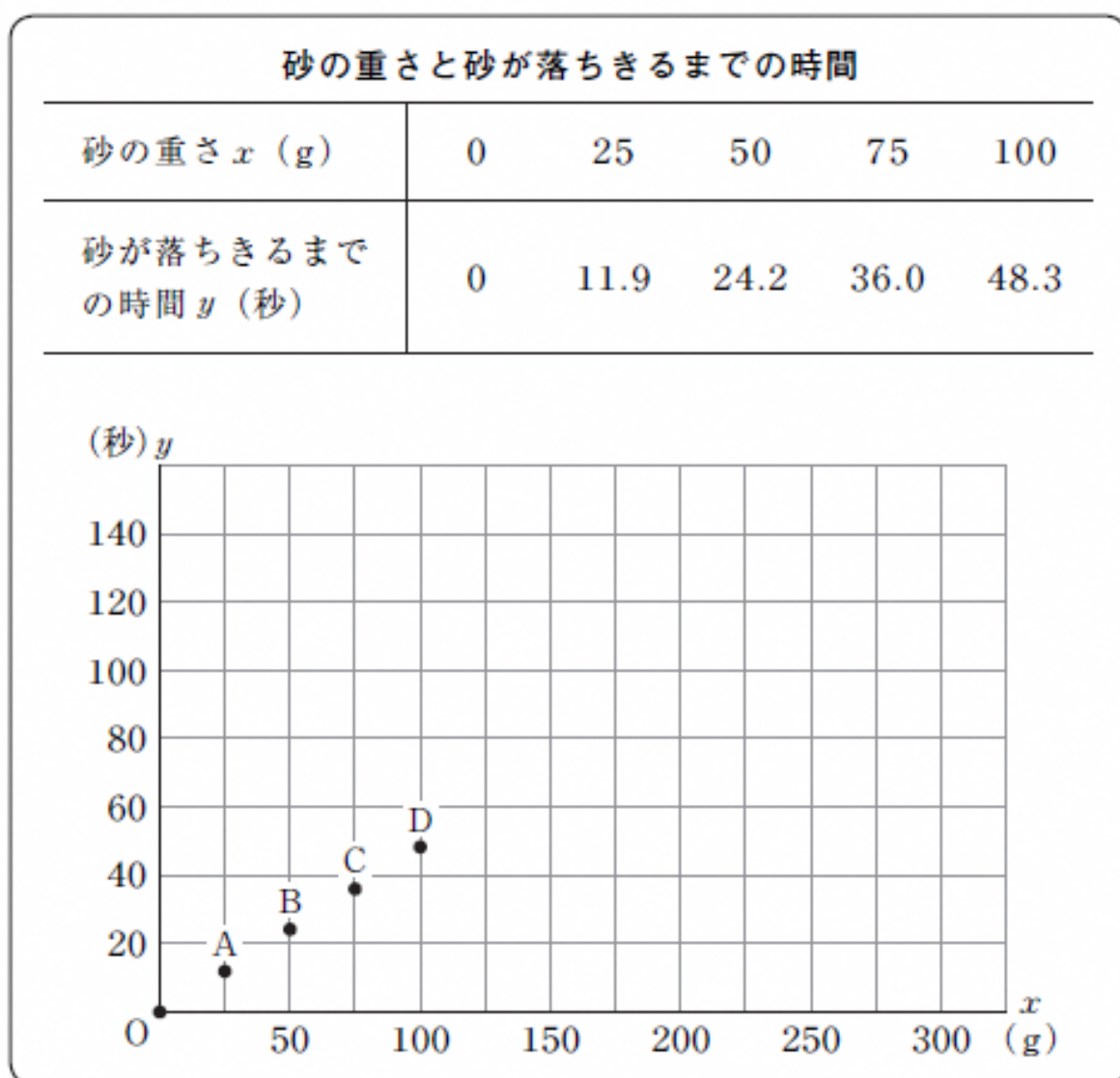
(1) 調べた結果のグラフにおいて，砂の重さが75gのときに，砂が落ちきるまでの時間が36.0秒であったことを表す点はどれですか。点Aから点Dまでの中から記号を1つ書きなさい。

【趣旨】与えられた表やグラフから，必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる。

■ 学習指導要領における領域・内容
〔第1学年〕C 関数

(1) 具体的な事象の中から二つの数量を取り出し，それらの変化や対応を調べることを通して，比例，反比例の関係についての理解を深めるとともに，関数関係を見だし表現し考察する能力を培う。
ウ 座標の意味を理解すること。

調べた結果



正答 C

	正答率
守口市	91.7%
全国（公立）	93.5%